

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192700282		
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ狭山笹井		
所在地	埼玉県狭山市笹井1丁目26番12号		
自己評価作成日	令和7年2月27日	評価結果市町村受理日	令和7年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ユーズキャリア
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地
訪問調査日	令和7年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までの生活をできるだけそのまましていただき、その人らしい笑顔あふれる暮らしを提供いたします。プチ旅行的な日帰り外出レクやお散歩など外に行く機会を提供いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

西武新宿線・狭山市駅からバスと徒歩で約15分の場所にある。開設から約1年の2階建て2ユニットの新しい施設である。周囲には住宅や大型団地、コンビニエンスストア、公園があり、入間川の河川敷公園など自然にも恵まれ、緑豊かで静かな環境にある。事業所独自の理念として、地名の笹井に因んだ「さいな気配りを集めたチームケア」を掲げている。できる利用者には共用部の清掃を一緒に行ってもらうなど、持てる力を活かしながら、笑顔のある暮らしを提供している。レクリエーションにも力を入れており、豊かな自然環境を活かし、家族も参加できる日帰りレクリエーションを実施している。また、頻繁に散歩を行い、外の空気を感じる機会を積極的に設けている。食事は3食すべて手作りで提供しており、入居者とともに準備を行うなど、食の楽しみを大切にしながら運営している。また、近隣の高齢者施設の管理者が運営推進会議に参加するなど、他施設とも協力関係を築いている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在、地域の皆様との関わりは2ヶ月に1度の運営推進会議の実施のみであるが会議にて地域貢献するべく理念と運営状況を発信報告している。	理念はフロアに掲示され、会議でも取り上げて話し合いを行っている。開設から1年が経過し、職員にも徐々に浸透してきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて地域の皆様との交流の機会を相談・企画に取り組んでいる。	近隣に住む入居者の家族から地域の情報を得たり、相談に応じたりしている。散歩の際には近隣の方々と挨拶を交わし、初詣の際には地域住民の協力を得て車を駐車させてもらった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設当初は相談会の開催とミモザ狭山笹井がどのような施設なのかどのような取り組みを行ってるのかを地域のケアマネ発信していたが現在あまりできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進中	2か月に1回開催しており、民生委員、自治会、包括支援センター、市職員が参加している。年2回は施設行事と合わせて家族会と同時に開催し、家族の参加も得ている。近隣の協力施設である特別養護老人ホームの施設長も参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご利用者の状況に変更があった時や運営に係る事項の変更に不明点があった場合相談している。	運営推進会議にも参加を得ており、運営報告などを行っている。開設間もない施設であるため、不明点や変更が生じた際には、いつでも連絡し相談できる協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を発足し2ヶ月に1回身体拘束廃止委員会の会議を実施。年2回身体拘束廃止に向けての研修並びに入社時新人研修を実施。	委員会は2か月に1回、研修は年2回実施している。研修後には振り返りの報告書を作成し、日々のケアを見直しながら理解を深め、適切に対応できるよう努めている。また、新入職時にも必ず研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を発足し、虐待防止の研修を実施。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を実施し知識と理解を得るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に関する説明をし、不明点等をお伺いした上で、いつでも聞けるような対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催、反映予定。(令和6年5月1回目、9月秋祭り開催時2回目実施)	年2回家族会を開催し、その際に要望や意見を聞いている。また、通常の面会時にも報告を兼ねて積極的に声をかけ、要望などを聞くよう努めている。寄せられた意見は運営に反映させるようにしている。日々の様子や写真を掲載した通信を毎月送付し、情報発信にも努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議時に運営状況報告等実施し反映させている。	月1回、全体会議を開催しており、職員は活発に意見を出している。職員の意見を検討し、どのように実行できるか具体的な案を考えながら実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月シフト表作成時各職員と相談し1on1を実施し各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の機会の開示して働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流なかなか実施等取り組みできていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の身体状況や体調管理とやりたい事等の希望を傾聴し職員全員へ共有して働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時は勿論、入居後も不安等を話していただけるような関係づくりを作れるよう、連絡を密にとり共不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、施設側でしっかり話し合いを設け、ケアプラン作成しサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	安心して過ごしていただけるような環境で笑顔で共同生活をしていただけるよう努め暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡を密にとり共有して本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居後は一人で外出することは基本ないのでできていない。	家族や知人の面会は、家族の了承を得た上で行っている。家族と外出したり、入居前に通院していた医療機関を継続して受診している入居者もいる。近隣に住む家族もあり、散歩の際には挨拶を交わすなどの交流を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者全員認知症の為、トラブルにならないような声掛けや見守りを行い少しでも快適な共同生活心掛け、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡・相談等あった際必要に応じた対応を行っており本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	しっかりとモニタリングした上でご本人とご家族の意向と希望をきいてケアプランを作成して本人本位に検討している。	会話ができる入居者も多く、日々の生活の中でその時々のお思いをくみ取り、希望を聞くようにしている。また、思いを伝えることが難しい入居者については、日々の様子を観察し、家族の意向も聞きながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居見学時これまでの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	6か月に1回モニタリングを実施し、見直しを行っている。担当者会議には家族や本人にも参加してもらい、要望を聞きながら職員と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。また、入居者の状態に変化があった際には、その都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ほのぼののタブレットへ個別記録し日々送り記録を残して職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している（訪問診療：狭山厚生病院）	訪問医は月2回、訪問歯科は月1～2回、訪問看護は週1回の訪問がある。入居前のかかりつけ医に通院している入居者もあり、家族が対応している。訪問医とは24時間連絡体制を確立し、入居者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している（訪問診療：狭山厚生病院、訪問看護：入間川訪問看護ステーション）		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係づくりを行っている。（訪問診療：狭山厚生病院、訪問看護：入間川訪問看護ステーション）		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に承諾を得た上で、重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期の対応について説明している。状態に変化があった場合は、本人・家族・医師と話し合いながら方針を決定している。希望があれば看取りまで対応できる体制を整えているが、これまでに実施した事例はない。職員には看取りに関する研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の研修等を定期的に行うなどして、利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練（BCP訓練含む）をして火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、防災訓練を実施している。火災・地震・水害などの災害時を想定し、訓練を行っている。消火訓練には入居者にも参加してもらっている。今後は消防署と相談しながら、地域住民も参加する訓練の実施を検討している。BCPを作成し、備蓄品も整えている。	消防署と協力し、地域住民も共に参加できる防災訓練の実施を希望する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の研修等を行い、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシー保護に関する研修を実施し、一人ひとりの人格を尊重しながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや対応を徹底している。特に、認知症の入居者が不安を感じないよう、声かけの仕方に配慮している。また、排泄時の声かけにも細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お持ち込みの洋服や化粧品を使っただき、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえやおやつの盛付食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付け食器洗い等をしている。	可能な入居者には、野菜の下ごしらえや盛り付けなど、状態に応じた作業に参加してもらい、片付けや食器洗いも手伝ってもらっている。おやつレクリエーションでは、クレープを焼いたり、クリスマスケーキを一緒に作ったりするなど、楽しみながら取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるメニュー管理のもと食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている（仕上げ磨きや声掛けを行っている）		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた、出来る事はやっていただきできない事のための支援を行っている。	自力でトイレ排泄が可能な入居者も多いが、一人ひとりの能力や排泄のパターン・習慣を尊重し、必要な部分のみ支援を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等や医師と相談をして、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月曜日から土曜日 週2回 基本午前中に個々のタイミングで順番に声掛けをし個々にそった支援をしている。	入浴は週2回を基本とし、希望がある場合は可能な限り対応している。入浴を拒否する入居者には、その理由を聞いたり様子を観察しながら、無理のない形で誘導している。また、温泉気分を楽しめるよう、入浴剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更、追加があった場合都度共有して、薬の目的や副作用、用法や用量について医療と薬局と連携し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	定期的に職員と施設近くを散歩に出かけたり、家族協力しながら出かけられるよう支援している。	天気の良い日はできるだけ散歩に出かけ、レクリエーションの一環として、家族の協力を得ながら公園でお茶会を開くなど、外出の機会を増やす工夫をしている。また、施設のデッキも活用し、外気浴を楽しめるようにしている。家族と外出する入居者もあり、その際には必要に応じて支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は基本的には持ち込まないようお話ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。携帯電話の持ち込みや施設職員が仲介し電話をしたりとやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感のある飾り作り飾り付けをするなどして、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	開口部が大きく、明るく清潔な空間が広がっている。また、トイレや浴室の場所が分かりやすいよう、カーペットの色を変えたり、ドアにイラストを描くなどの工夫を施している。フロアごとに机と椅子の色を変え、それぞれ異なる雰囲気になっている。壁には季節の飾りが飾られ、入居者が思い思いの場所でくつろげる環境が整えられている。1階にはウッドデッキがあり、外気浴などに活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の間では席替えなど実施し、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真や家具の持ち込んでいただいたり使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはベッド、チェスト、クローゼットが備え付けられている。入居時には、使い慣れた椅子やテーブル、家族の写真や作品などを自由に持参している。清掃が可能な入居者には、一緒に行ってもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部では朝のお掃除タイムを設けたり、洗濯物たたみや洗い物などの家事を一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		